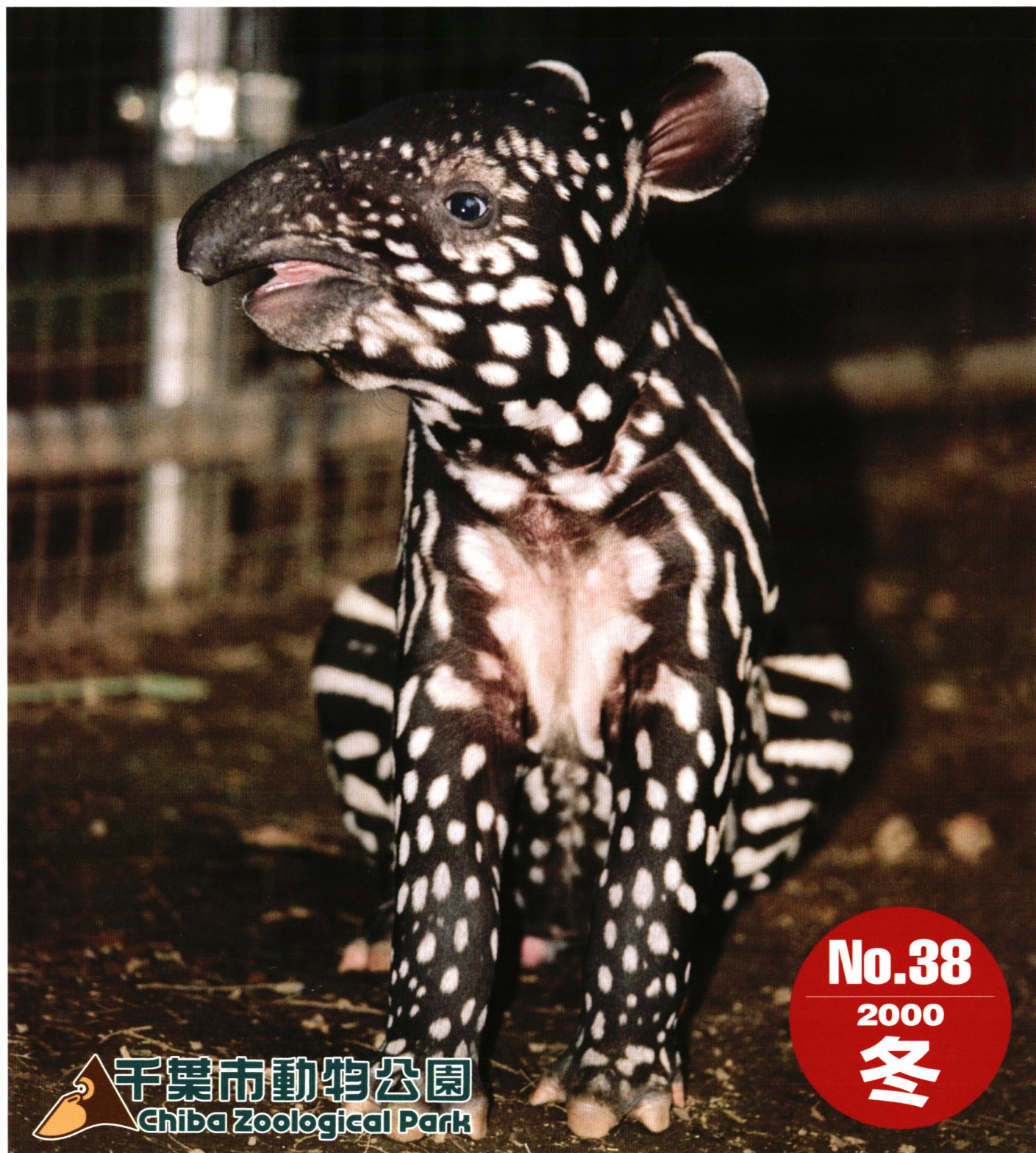


どうぶつこうえん ニュース



 千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.38

2000

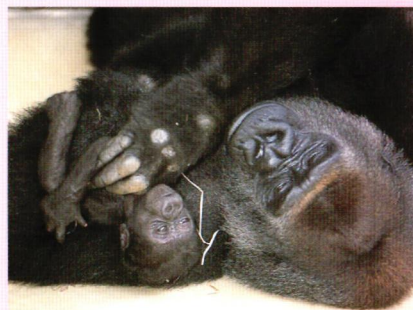
冬

ニシローランドゴリラのモモコ出産

今年7月1日の朝8時前に陣痛が始まり、その後3分間隔くらいで続き、いよいよ出産かと思っていましたが、陣痛がしだいに弱くなり、夕方には間隔が長くなって力まなくなりました。またいつ陣痛が再発するのかと、すぐに対応できるように飼育係2名と動物病院の獣医1名が泊り込み、24時間の観察態勢をとりました。明けて2日、獣医が分娩促進剤を打ちましたが、変化がなく、ヒトの場合では陣痛が止まってしまったときなど、家に帰してまた来ることがあると聞き、ほっとしてそのままようすを見ることにしました。モモコは陣痛のあいだ、何も飲んだり食べたりしなかったので、体力をつけるために好物や口当たりの良いものを食べさせ、水分補給にジュースやスポーツドリンクを飲ませました。モモコはかなり体力を消耗したらしく、よく眠り込んでいました。3日未明4時頃に再び陣痛が来て、今度はいよいよだという感じです。モモコはやり場のない痛みに耐え、「なんとかしてよ!」といわんばかりに両手で頭をかかえ、我慢します。何回か胎児の頭をのぞかせながら、繰り返しむようすが必死で、思わず「がんばれ!」と叫ぶほどでした。そして10時29分に赤ちゃんが誕生しました。

飼育や病院のスタッフは、赤ちゃんが生きて産まれてくるか、ちゃんと呼吸できるか、モモコがきちんと抱くか、おっぱいを探して吸えるか、おっぱいが出ているか等いろいろな心配をしました。モモコが世話をできずに人工哺育になったときの哺乳器を準備し、赤ちゃん

とモモコを分けるのに使う麻酔の準備もしました。しかし、出産直後、赤ちゃんの顔を優しくくわえて口や鼻から羊水を吸い出したときには感動しました。初産なのに、落ち着いて上手に面倒をみ、大事そうに赤ちゃんを抱くモモコの姿は泊り込みで対応したスタッフをはじめ、今までゴリラに係ってきた多くの人たちの苦労を一瞬にして忘れさせてくれました。本当に幸せな時間に立ち会ったと思います。



写真：東京動物園協会提供

授乳は出産2日後にも確認できず、不安な1日でしたが、5日の朝に確認できて安心しました。4日夜のモニター観察では、おっぱいに吸いついているようすが見受けられましたが、確認できませんでした。

多くの心配事を一つ一つクリアしながら、授乳の確認までできましたので、上野動物園のスタッフ一同はひと安心しました。

多くの心配事を一つ一つクリアしながら、授乳の確認までできましたので、上野動物園のスタッフ一同はひと安心しました。

東京都恩賜上野動物園 飼育課東園飼育係
ゴリラ担当 今西 亮

目次

CONTENTS

表紙【マレーバク(仔)】	①
トピックス	
【ニシローランドゴリラのモモコ出産】	②
飼育レポート【クロザルの繁殖】	③
特集【コウノトリの野生復帰をめざして】	④・⑤
動物公園の植物⑧【メタセコイア】	⑥
健康管理センターから【ビタミンHのお話】	⑦
動物公園日誌から【'00.8/1~'00.10/31】	⑦
編集後記	
裏表紙【トナカイ(仔)】	⑧

表紙の動物説明 マレーバク(仔)

今年9月4日、当園でマレーバクの仔が誕生しました。

マレーバクはマレーヤタイ、スマトラ地方の水辺の森林に生息し、主に夜間に活動します。仔はイノシシの仔と同じように体に縞模様があります。いわゆる「うり坊」で、この縞模様は保護色になり6ヶ月位でなくなります。仔の成長は早く2ヶ月で生まれた時の体重の5倍、2年も経つと親と変わらない大きさになります。

マレーバクは生息地の環境破壊などで数が減っており国際的にも保護されています。

秦 舜二 (Shunji Hata)

動物飼育数

平成12年10月末現在
Classified number of animals
as of 31. Oct. 2000

哺乳類	55種	252点	両生類	0種	0点
鳥類	80種	308点	魚類	0種	0点
爬虫類	4種	20点	総計	139種	580点

クロザルの繁殖

クロザルは、オナガザルの仲間で、東南アジアのセレベス島北部とその周辺の島にのみ生息しています。名前の通り、全身黒い毛で覆われ、頭頂の毛が“モヒカン”のように長く直立しているのが特徴です。雑食性で、果実だけでなく昆虫なども捕えて食べます。

当園では、1989年からクロザルを飼育・展示しており、現在の雌との間に昨年まで4頭の子供が生まれ、そしてまた、今年も新たな命が誕生しました。

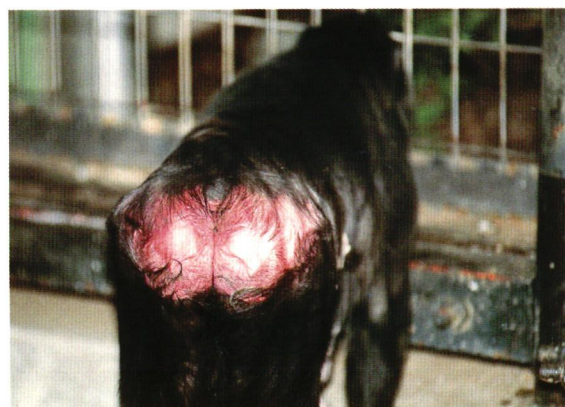


クロザルの繁殖は、ニホンザルのような明確な出産季（出産ピーク）はありませんが、雌は発情の徴候が外部に顕著に表れます。ニホンザルも含め、ヒヒやその他の旧世界ザル（アジア・アフリカに住むサル）では、赤い尻が雌の発情の印となりますが、単に赤くなるだけでなく、加えて大きなふくらみ、はれあがりが生じます。はれあがりがあまりにも痛々しく見えるため、お客さまから「病気では？」との声も聞かれるほどです。当園では、クロザルの他にチンパンジーやマンドリルでも、このはれあがりを見ることが出来ます。

通常、成熟した雌が非妊娠の状態において、卵巣の周期に伴い反復される生殖活動の周期を性周期といいます。が、クロザルでは、1周期約32日、この周期でお尻がは

れあがり、そして急激に退縮します。はれあがりが最大になると排卵が起こり、交尾の合図になります。このお尻のはれあがりが雄には何とも色っぽく見えるのでしょうか。さらに雌には、相手に近づいて欲しいときに口を速いスピードで開け閉めする“リップ・スマッキング”が交尾の直前にもみられます。そして雌が交尾への誘いとして雄に尻を向ける“プレゼンティング”効果により、交尾が行なわれます。およそ、155～175日の妊娠期間を経て、新たな命が誕生します。

生まれた子供は、おとなのサルとは大きく異なる所があります。それは顔の色（肌の色）です。クロザルは、体毛はもとより、顔の色も黒色ですが、生まれた子供は体毛こそ黒色ですが、顔の色は肌色です。この色は10ヶ月位まで続き徐々に黒色となっていきます。これは、他の動物でも見られることですが、赤ちゃんは何らかの目立った特徴をもち、その期間、群れからの保護が保障されます。



発情期前のお尻

今年は9月5日に子供が生まれました。誕生してからすぐに子供は、母親のお腹につかまり、母親が移動の際にはあお向けの状態でしっかりと張り付いています。3週間になると徐々に母親も子を離し、少しずつ歩く姿がみられるようになります。1ヶ月を過ぎると、果物なども口にし、母親から離れられるだけの力がつき始め、跳んだり躍ねたりし始めます。

この子供以外に2才になるお兄ちゃんがあります。あと5ヶ月もすれば格好の遊び相手となり、これから益々にぎやかになるでしょう。少しは不安もありますが、にぎやかな毎日、とても楽しみにしています。

中村 彰宏 (Akihiro Nakamura)

コウノトリの 野生復帰をめざして



【はじめに】

コウノトリの仲間は熱帯を中心として17種います。しかし、北の寒い地方にまで分布している種は嘴の赤いシュバシコウ（ヨーロッパコウノトリ）、中央アジアに生息してインドに渡る嘴の赤いオオシュバシコウとシベリアに生息して日本や中国南部に渡る嘴の黒いコウノトリと全身真っ黒のナベコウがいます。どれも絶滅の心配がありますが特に最後のナベコウとその前のコウノトリは厳しい状況にあります。

日本では昔の絵画に、松の木にタンチョウが止まっている絵があります。これは大変な間違いでタンチョウは木の枝には止まれません。コウノトリが松に止まっているのを見て間違ったのか、意識的に松にタンチョウを書いておめでたい絵としたのかははっきりしません。



（左）コウノトリ （右）シュバシコウ

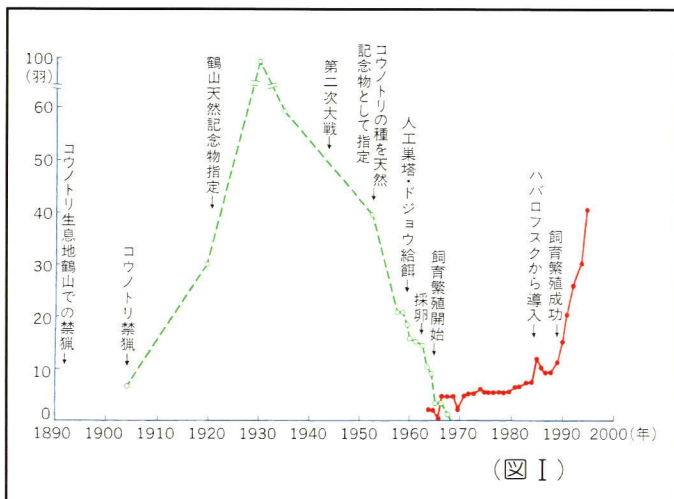
【コウノトリの歴史】

かつてコウノトリは日本中に生息しており、トキと同様比較的一般的な鳥でした。ところが江戸時代から明治に移るまで保護されていたのですが、その後混乱のため取締まれなくなり、多くの鳥たちが犠牲となってしまいました。その中のひとつにコウノトリがあり、兵庫県北部の但馬地方でしか見られなくなってしまいました。但馬

の殿様はコウノトリの捕獲を禁じ、住民も大切にしており、保護の気風がもともとあったのでしょう。しかし、1971年に最後のコウノトリが野犬に襲われ、保護されましたが死亡してしまいました。残念ですが、これが野生下での最後の1羽でした。これで日本から野生のコウノトリは絶滅したのです。

【保護の歴史】

コウノトリの保護は、但馬の殿様がコウノトリの捕獲を禁止し、住民も大切にしていたため但馬地方では江戸時代からコウノトリの生息地として知られていました。江戸から明治になった直後の混乱で、多くの大型の鳥たちは狩猟の対象となり激減しました。しかし、但馬地方はコウノトリを大切にする気運があったので絶滅を免れたのです。その後各地に大陸から飛来しましたが、定住はしませんでした。但馬地方のコウノトリの個体数の推移は図Ⅰのようになっており、一時的に減少はしましたが、1904年から繁殖するようになり、天然記念物に指定されるなど保護処置がなされ個体数は順調に伸びていきました。しかし、第二次世界大戦は人々のみならずコウノトリにも大きな打撃を与えました。まず、営巣する松などの大木が切り倒され、食料増産の敵として捕殺されたのです。終戦後は食糧増産のため強力な農薬が使われ、そのために死んだ魚やカエルを食べ、水銀が蓄積し、1959年に繁殖したのを最後に繁殖しなくなってしまいました。



（図Ⅰ）

そして最後の1羽も1971年死亡し、野生下では絶滅してしまいました。地元の市民団体及び豊岡市や兵庫県は1955年から保護に取り組み、汚染されていないドジョウを放流したり、営巣できる木がなくなってしまったので、田圃に人工の巣台を設置するなどの活動をしました。1963年からは豊岡市に飼育場を作り、捕獲して人工繁殖のために飼育を始めました。地元の神戸市立王子動物園では、何とかコウノトリを復活させようとまだ国交のない中国から6羽を輸入し、繁殖を試みましたがあまりかんばしくありませんでした。同時に大阪市天王寺動物園や京都市動物園でも、同じ仲間のシュバシコウの繁殖を試み成功しました。1969年、東京都多摩動物公園でも地上に巣を作り繁殖に成功しました。これらのデータを参考にして、産卵したコウノトリの卵の人工孵化に挑戦しましたが、孵化には至りませんでした。豊岡市には1985年、現在のロシアから6羽が寄贈され、2組のペアができ、1989年に初めて雛が誕生しました。その後幾つかのペアができ、順調に数を増やして行き、1994年には3代目の雛も誕生しました。コウノトリの繁殖には多摩動物公園の努力を忘れるわけにはいきません。中国の北京動物園から寄贈されたもの、沖縄や北海道で保護されたコウノトリを集め、1988年に日本で初めての繁殖に成功し、豊岡のコウノトリ保護センターとも交流し、今日に至っています。



コウノトリの郷



コウノトリの郷展示館

【野生復帰への挑戦】

兵庫県は、再び豊岡の空にコウノトリを飛ばせるため、野生のコウノトリ最後の地となった同地に県立コウノトリの郷公園を建設しました。この施設は、「特別天然記念物であるコウノトリの保護増殖を図り、人と自然が調和した環境の創造について県民の理解を深め、教育、学術及び文化の発展に寄与すること」を目的として設立されました。この目的を果たすため、165haの敷地の中に管理・研究棟、検疫棟、飼育管理棟、繁殖や野生順化のための大小のケージが造られ、23人のスタッフで管理しています。ここでは現在74羽が飼育されています。この組織で注目すべきことは、県立大学の自然・環境科学研究所の一部である「田園生態保安全管理研究部門」が置かれていることです。この研究所では、コウノトリの野生復帰だけでなく、その環境の研究もするためです。野生に戻してもその場の環境が保全されなければ何の意味もないことだからです。このように行政主導で一つの絶滅に瀕した種を守っていく試みは大変重要であり、その成功を期待しています。

宗近 功 (Isao Munechika)





動物公園の植物…⑬

The plants in the Chiba Zoological Park

メタセコイア 別名／アケボノスギ



メタセコイアは、スギ科メタセコイア属の落葉高木です。

1945年中国の湖北省と四川省との境を流れる揚子江の奥地で、生育しているのが中国の植物学者によって発見され、生きている化石植物として有名になりました。

メタセコイアは、地質学的に言えば百万年前までは北半球に広く分布していましたが、中新世の終期以来、北米で死滅した

植物となりました。中国で発見されたメタセコイアは、種子が採取され、その種子がアメリカへ渡り日本へは1949年秋、苗となったものがアメリカからもたらされました。

いまでは、日本各地に風致木として植えられています。原産地の中国では高さ35m、幹の直径も2.5mになるものがあるそうです。

特性としては、非常に伸びの早い木で、挿し木をしても良く根つき、また栽培しやすく、性質は耐陰性は弱いが耐湿性には強いものがあります。病虫害が少ないので管理しやすい樹種です。

樹皮は赤褐色で縦に裂け、枝や葉は対生し、色は淡緑色なので、常に新緑のような爽やかな印象を与えます。

冬ごもりには葉と小枝を落とし、2～3月に開花します。

雄花序は黄褐色で長く垂れ下がり、雌花は緑色をしています。球果は長さ2～2.5cmの卵状球形で、10月頃成熟して褐色になり、種子は倒卵形で幅の広い翼があります。

用途は建築・器具材・薪炭などに使用されます。

当園では、急流すべり（遊園地）の風致木として有用な樹木となっています。

岡澤 薫 (Kaoru Okazawa)



健康管理センターから

From Animal Health Center

「ビタミンHのお話」

ビタミンHは、あまり話題にならないビタミンですが、マレーバクはこれをとても大量に必要とします。

昔から動物園のマレーバクは、なぜか皮膚のトラブルが多いと言われております。事実、当園の雌の「ユキミ」も、8年前に千葉へやってきた当初、^{ほうかしきえん}蜂窩織炎という、皮膚の病気にかかり、1ヶ月あまり治療しました。またその前年に来た雄の「ヤマト」は背中や足の裏などの皮膚のちょっとしたトラブルが続いておりました。

そのころ海外の動物園情報の中に、「バクの飼料にビタミンHを加える」との記述があったので少しずつ与え始めました。どのくらいの量を与えたらいいかは不明でしたが、幸いビタミンHはビタミンBやCと同じ水溶性ビタミンと呼ばれるものなので、脂溶性のビタミンAやDのような過剰症の心配はありません。少しずつ与える量を増やしていきました。

1つ問題が起きました。ビタミンHは少々値段が高いのです。担当者がフルーツなどに薬をまぜてバクに与えてくれるのですが、バクの鼻息で薬がふわっと飛んだりすると、「あっ、今ので何10円分が飛んだ！」このロスは無視できないので、薬に混ぜものをして飛びにくくすることにし、値段の安い乳酸菌製剤でちょうど2倍に増やしました。バクは消化器の病気も多いので、その予防も狙ったわけです。

その後、徐々にバクのお肌のトラブルは減ってきました。また、ここから先は推論の部分もあるのですが、熱



帯雨林に住んでいる草食動物のマレーバクは、フルーツが大好きです。しかしサルのように木に登って採ってくるのは無理なので、熟して木から落ち、発酵が進み、野生の乳酸菌をたっぷりと含んだものを拾い食いしている、その乳酸菌は彼らの腸管内でビタミンHを生産するのに関与しているのではないかと？さすがに野生の乳酸菌は無理なので、今は3種類の乳酸菌製剤をミックスしてビタミンHと共に与えてもらっています。今回は結果としてうまくいったというお話で、めでたしめでたし。

市川 心一 (Shinichi Ichikawa)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'00年8月1日～'00年10月31日

- 8月 1日 東京農業大学学生（2名），
学芸員実習開始（11日まで）
- 8月 4日 中学生職場訪問（千葉市立草野中学校，4名）
- 8月 5日 北里大学学生（1名），
学芸員実習開始（18日まで）
- 8月 11日 トナカイ（雄1），繁殖
- 8月 12日 シロエリハゲワシ（雄1），多臓器不全で死亡
- 8月 15日 北里大学学生（1名），獣医実習開始（27日まで）
- 9月 4日 マレーバク（雄1），繁殖
- 9月 5日 クロザル（不明1），繁殖
- 9月 6日 関東東北ブロック動物園技術者研究会に，宝川
係長出席（東武動物公園にて）
- 9月 11日 アジアスイギュウ（雌1），コツメカワウソ（雄
1，雌1），動物交換で新着
- 9月 17日 「ワンポイントウォッチング」開催（ボルネオ
オランウータン）（講師 飼育係 中村 智）
- 9月 24日 「動物愛護週間特別講演会」開催-コウノトリ
野生復帰への挑戦-（講師 宗近園長）



- 9月25日 ムフロン（雄2），富士サファリパークへ寄贈
コジシロヤマドリ（雄1），東京都恩賜上野動物
より受贈
- 9月27日 ニシローランドゴリラ（モモコ）親子，東京都
恩賜上野動物で一般公開（10月1日から10月
31日まで）を，報道発表
- 9月28日 ゲルディーモンキー（雌1）と（雄1）を，日本
モンキーセンターと動物交換実施
- 9月30日 クロミミマーモセット（雌1），腸炎で死亡

- 10月 2日 ムフロン（雌1），繁殖
- 10月 5日 中学生職場訪問（市原市立加茂中学校，5名）
- 10月14日 中学生職場訪問（市原市立姉ヶ崎東中学校，3
名）
- 10月15日 「折り紙教室」開催（講師 レクリエーション
コーディネーター たかのぼし 鷹鷲 妙子氏）



- 10月21日 中学生職場訪問（千葉市立高洲第一中学校，6
名）
- オグロマーモセット（2頭），繁殖
- 10月22日 「ワンポイントウォッチング」開催（dachou）
（講師 飼育課 樽川）
- 10月23日 受変電設備点検のため，園内全域停電
- 10月25日 第10回ゾウ会議に，浅野出席（27日まで，仙
台市八木山動物公園にて）
- 10月26日 中学生職場訪問（習志野市立第四中学校，2名）
- 10月29日 中学生職場訪問（千葉市立幕張中学校，3名）
千葉県警成田署の要請で，飼育係3名，イノシシ
捕獲協力

小林 正典（Masanori Kobayashi）

編集後記

今年10月より遅まきながら当園でも，他のイベン
トのない，土・日・祝日に「ガイドツアー」の実施
を開始しました。エリアを限定して20分程ですが，
クイズを交えながらの動物（現在は，ゾウとキリン，
シマウマ，マーモセット，アルマジロ，類人猿）の
簡単な説明会です。話の種に一度ご参加ください。
けっこう楽しいですよ。どうぶつこうえんニュース
次回発行予定は，平成13年3月1日です。

（白井 剛）



トナカイ (仔)



Information

平成12年 平成13年
12月～3月
 までの
催し物一覧

- ★ 12月10日 ㊦ クリスマス音楽会
- ★ 年賀状コンクール (募集期間：1月1日㊦～10日㊦)
- ★ 1月7日 ㊦ もちつき大会
- ★ 1月14日 ㊦ バードウォッチング
- ★ 3月20日 ㊦ ZOOクイズラリー
- ★ 3月25日 ㊦ ワンポイントウォッチング (ミニアキヤット)